

Contents

- 2 介護保険法改正
「介護を社会で支える」理念はどこへ
- 3.4 小さいけれど良質なサービスを提供!!
ワーカーズ・コレクティブ

心をこめた料理で おもてなし

埼玉県障害者交流センター内で
レストランをオープン

むすび食堂

埼玉ワーカーズ・コレクティブ連合会に新しい仲間が増えました。さいたま市大原の埼玉県障害者交流センター（以下交流センター）内のレストラン事業を、施設の管理団体である埼玉県社会福祉事業団（以下福祉事業団）から受託したワーカーズです。このレストランを以前に受託していた企業が撤退することになり、2016年3月に福祉事業団から連合会会員ワーカーズに相談があったことがきっかけでした。

交流センターは利用者がスポーツ・文化活動を行う場やそのための支援を提供し、障害を持つ人達も社会との交流を進められるようにつくられた全国でも数少ないユニバーサルな施設です。

ワーカーズ連合会は、2016年6月に新しいレストランをオープンさせるワーカーズを作るために人材探しから始め、集まった人たちが短期間で見事に開業しました。

事業を通してつながり、結びあいたい

「埼玉県障害者交流センター内のレストランで働きませんか!」という埼玉ワーカーズ連合会の呼びかけチラシで集まったのは、食に感心を持ち、暮らし方などにこだわりを持つさいたま市在住の40代から60代の人々でした。

第1回発起人会が4月26日に開かれ、その後毎週会議を持ち、ワーカーズ・コレクティブの考え方や働き方を学び話し合いを重ねました。募集がなかったら出会う事なかったメンバーの結びつきや交流センターのお客様との結びつきを深め、さらには地域の人々との結びつきにつながっていききたいという希望を込め、社



名が決定され、6月6日に「一般社団法人ワーカーズ・コレクティブむすび」が設立しました。そして店名は「むすび食堂」です。主な事業内容は、埼玉県障害者交流センター施設内「わいわい広場」での昼食時間帯の食事の提供です。

短期間での開業

メンバーは、レストランや弁当屋、福祉施設での職歴を持つ者など個性豊かで様々な特技を持ち合わせていました。それぞれの持ち味を結集させ役割を分担し合う事で、準備が進められ急ピッチで事業内容も整えられ、想いと現実のはざまの中で1ヶ月半という短い期間で開店の運びになりました。

気づきを私たちの力に

オープンして1カ月が過ぎ、交流センターには、様々な方がみえます。

目の不自由な方へは、メニューを読み上げ、食器の位置を説明します。聴覚障害がある方には、筆談や、大きく口を開けて説明します。

人との交流を求められている職場であることや私たちが目指しているものがここにあることが日々の営業の中で見えてきました。

私たちメンバーの笑顔で「むすび食堂」を前へ進めることで、人々との結びつきにつなげていきたいと思いを膨らませています。

一般社団法人むすび 代表 大高文子